

## 奈良時代と名張・伊賀

### 奈良時代とは

飛鳥時代の藤原京から都を平城に遷都した710年から長岡京に遷都する784年までの74年間です

聖武天皇は724に天皇に、よく遷都した。

740年-744 恭仁京(京都府木津)、744年に難波京(大阪府大阪市)、744年-745 紫香楽宮(滋賀県甲賀市信楽)、

745年に平城京に宮都を遷した。

### 奈良時代の天皇

元明(げんめい)天皇 藤原京から遷都 元正(げんしょう)天皇 聖武(しょうむ)天皇 孝謙(こうけん)天皇

淳仁(じゆんにん)天皇 廃帝 称徳(しょうとく)天皇(孝謙の重祚) 光仁(こうにん)天皇 桓武(かんむ)天皇

その後都を長岡および平安京に遷都 以上の8代の天皇が在位

### 元明天皇

父親は天智天皇 母親は曾我姪娘(めいのいらつめ) 姪娘の姉に蘇我遠智娘 その子が持統天皇

蘇我倉山石川麻呂の子が、遠智娘と姪娘 その姉妹の子が持統天皇と、元明天皇

持統天皇の子供 草壁皇子命の妃に阿陪皇女(元明天皇) その子が文武天皇

文武天皇から皇位を「自分が病んでいるので、暇を得て治療したい。この天皇の位を自分の詔として、母上に天皇としておつきになり、お治めになるべき」と言葉をうけたまわり、「私はその任に堪えられません」と辞退したが、度重ねてお譲りになるのでお受けしました。と詔された。その年が 慶雲四年(707)6月

元明天皇として、慶雲4年12月 伊予国に疫病 薬を支給し治療にあたらせた。

翌年正月に武蔵の国から銅が出て献上 年号は慶雲5年を改め、和銅元年とした。

讃岐国に疾病がはやり、薬を支給し治療にあたらせた。

和銅元年2月(708) 遷都は急ぐ必要はないが、「昔から太陽や星を観測して、東西南北をたしかめ、宮室の基礎を定め、世を占い地相を見て帝皇の都を建てている。衆議も無視しがたく久安の住居のために遷都しよう。」

元明天皇 和銅元年2月15日詔(708年)

方今平城之地(まさにいま へいじょうのち) 四禽叶図(しきん とにかない) 三山作鎮(さんざん しづめをなす)

亀筮並従(きぜい ならびにしたごう) 宣建都邑(よろしく とゆうをたつべし) 宣建都邑

平城京 東西は4坊+4坊=8坊 南北は9条 9×8の都 東は青龍 西は白虎 南は朱雀 北は玄武

東大寺大仏建立に聖武天皇の協力願いで 行基は 天平15年(743年) 東大寺の大仏像造営の勧進に起用

この行基建立のお寺が名張近郊の 山添村にある神野寺である

ウィキペディアによると、740年(天平12年)行基の開山により創建された一心院に始まると伝えられ、平安時代に入り神野寺と号するようになった。

重要文化財(国指定) 銅造菩薩半跏像 - 像高16.7cm。飛鳥時代(7世紀)の作 奈良県山辺郡山添村大字伏拝750

寺名: 髪生山一心院神野寺(かみおやま こうのじ) 伏拝(ふしよがみ) 近くに 助命(ぜみょう)

『神野山縁起絵巻』から 京都女子大学図書館蔵

持統天皇十年(699)鹿島明神(武甕槌命)が母・甕速日命のいる大和国添上郡春日野にて共に居住することになったところ、甕速日命が甚だ美麗であったため、鹿島明神に付き従っていた舎人が見初めて、恋慕の思いを深くつのらせた。甕速日命は、身に危害が及ぶことを恐れて、春日野の里を密かに出る。…このことを知った舎人が追っかけ大蛇

となり追いかけて、髪生川の辺りで間近に迫った。意を決した命は剣を抜いて大蛇を切り殺し、甕速日命は髪生山の頂に住み、女が入山する事を許さなかった。今も恐れて、麓の里の川で手を洗い口を漱いで明神を拝するので、里を伏拝村(ふしよがみ)、その川を手水川という。その後聖武天皇の時代に天平二年(730)に安部親王が重病になり、陰陽博士の大津連が、神野明神と、鹿島明神の祟りとなり法楽せよ。..後は法楽したとも治ったとも未記載

日本歴史地名大系『奈良県の地名』「神野寺」記すのみ。

しかし、春日大社蔵『春日御社御本地并御託宣記』および『春夜神記』(しゅんやしんき)の二種の社記には聖武天皇の天平二年(730)の安部親王が重病になった際に、神野大明神(甕速日命)・鹿島明神の祟りで大津連の占いに従って、行信らが最勝王経を講読すると平癒し、結果、神野寺が建立されるに至ったと伝える。

「行基」とあるのは「行信」の誤記の可能性がある。

春日大社所蔵の2記は永享9年(1437)写が最古。『神野寺縁起絵巻』は絵の材料等から「江戸中期写」とされている。

『続日本紀』の聖武天皇 天平2年3月

陰陽・医術・七曜(天文学)、暦等の学術は、国家の要とし、大津連ら7人博士に弟子をとり学業を教授させた。

同年9月29日の詔。京および諸国に盗賊が多く出る。..必ず生捕りにさせよ。..また京の左側(東方)の丘に、多人数を集めて妖しげなことを言い、衆人をまどわす者がある(行基集団をさしたのか)これらのものは国法に背いている。このままにしておくくと人々の受ける害はひどくなるだろう。今後このようなことを許してはいけない。として、行基集団を指弾。しかしその後、転じて天平3年8月に行基にしたがう優婆塞・優婆夷の得度許可と宥和政策に転じている。

天平7年九州で疱瘡が流行し始める。

天平10年正月(738) 安部内親王を皇太子とした。7月 行信法師を律師に任じた。法隆寺東院復興

以上の記事より以前に皇太子の病気になる

神亀5年8月の詔(728)

「皇太子の病が日を重ねても癒らない。三宝の威力に頼らなければ、どうして病を逃れることができようか。そこで謹んで観世音菩薩像を177体をつくり、あわせて観音経177部を写し、仏像を礼拝し経典を転読して、一日行道(経をとらえながら仏像や仏殿のまわりをめぐる行)を行いたいと思う。この功德によって皇太子の健康の回復を期待したい。」そして全国に大赦した。

9月13日に皇太子(基王)が薨じた。年齢2歳の記載はあるが、阿倍内親王の記載は無い。

神野寺は平城京の鬼門鎮護のため創建した法性寺正院が、後に神野親王(嵯峨天皇)の二字を賜って「神野寺」と称したとされている。

その神野寺の創建者として行基とされるが、行信の可能性もある。

明治末まで屋根瓦に菊の紋章がある。歴代天皇の尊崇も篤く清和上皇が行幸した大和・山城・摂津3ヶ所13ヶ寺の1つである。慶長年間、文化5年、明治10年と3回の火災で主な記録が焼失し、本尊は「薬師如来」重文で奈良国立博物館に寄託の「銅造菩薩半珈像(如意輪観音像)」、像高25.1cmは、火災で全身荒れている。飛鳥後期仏像

神野寺の奥には、山添村指定天然記念物「天狗杉」がある。

神野山には鍋倉溪がある。: 地下深部でゆっくり冷えて固まってでき前地質時代に山の表面が風化して土壌化するさいに角閃斑糲岩(かくせんはんれいがん)の堅い部分が風化に耐えて、浅い谷に集まった。

行信 天平十年7月9日(738) 律師に任じた この頃から法隆寺東院の復興に尽力

法隆寺、元興寺で活躍 天平11年斑鳩宮跡の荒廃ぶりを嘆き太子供養の伽藍の建立し法隆寺東院伽藍を創建 同19年10月の正倉院文書に大僧都行信とみえる。

法隆寺東院夢殿 奈良時代739年 聖徳太子を追慕して創立された法隆寺東院の中心建物

本尊 救世観音菩薩立像 東院の創立者 行信、再興に尽力した道詮の像を安置

道詮（どうせん 797-873 年）平安時代前期の三論宗の僧 法隆寺夢殿を再興 堂は八角形の平面  
救世観音菩薩立像

秘仏 春秋の特別期間だけ開扉 2021 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 5 月 18 日

世に知られたのは 岡倉天心、フェノロサの手で開扉された 明治 17 年(1884)の古社寺宝物調査

明治以降の近代仏教美術史上の最大の劇的発見 宝物調査は、何度か行われていたが、開扉されず。

明治 5 年(1872)に「壬申検査」でも開扉されず。明治 10 年代に岡倉天心、フェノロサの登場で政府の古社寺宝  
物保存方針の後ろ盾を得て何度も訪れ、開扉されたのは、明治 17 年(1884)8 月

聖徳太子現身の像と伝えられ、千古の絶対秘仏とされて、夢殿の厨子内に嚴重に封印され祀られていた。

寺僧は、そんなことをすると、秘仏を冒瀆する仏罰として、地震や落雷が起こり、お寺が壊れてしまうと、徹底  
的に拒絶抵抗叶わず寺僧たちは、皆、夢殿の前から逃げ出す。

錆び付いた錠前をこじ開けると、厨子の中から、大きな背の高いものが現われた。

長い布で、しっかりとグルグル巻きに巻き付けられていた。埃にまみれた厨子の中からは、ネズミや蛇が跳び出  
す。巻きつけられた長い布を、埃で息が詰まりそうになる中、巻き取り外していくと、ついに金色の救世観音像  
が、その姿を現したのでした。

フェノロサは、「ついに巻きつけてある最後の覆いを取り除かれると、この驚嘆すべき世界無二の彫像は、数世紀  
を経て、初めて我々の眼前に姿を現したのである。」 岡倉天心は、「除きおわれれば 7 尺余の仏像、手に珠を載せ  
厳然として立てるを見る。一生の最快速なりといふべし。」巻きつけられた布を解きほどという、ドラマチックな  
条件 飛鳥時代の仏像の発見となった。推古朝の木彫である。

奈良時代の状況

奈良時代の気候から見た生活

『尾瀬ヶ原の自然史』阪口 豊中央公論社(1989)

『気候で読み解く日本史』田家康 日本経済新聞 2013.7

8 世紀当時の人口 ヨーロッパ 600 年~1000 年 2600 万人→3600 万人 1.8 倍

中国 同年比 5000 万人→6600 万人 1.3 倍

日本 800 年→900 年 600 万人→644 万人 1.07 倍 725 年→1150 年 400 年間で 1.2 倍 蒲田教授

730 年 950 年 580~640 万人→440~560 万人と減少 平均寿命 20 歳切る(ハワイ大学ファリス教授)

飛鳥時代から奈良時代に技術者集団渡来人の移住 『新撰姓氏録』によれば全氏族の 30%が渡来人

技術の発展の中、律令制度という国家システムが全国に国司を派遣し、巨大木造建築を造営する国家文化に発展  
にもかかわらず、人口は増えない。早魃・飢饉・疫病が頻発

『続日本紀』697 年~791 年の気候 ファリスの調査

降雨・寒冷・高温・乾燥区分の頻度件数

降雨 59 24.7% 寒冷 10 4.2% 高温 67 28% 乾燥 103 43.1% 計 239

湿潤寒冷指数 29 干ばつ指数 43 以降 1600 年までを調べると(約 100 年毎に)奈良時代の干ばつはひどかった

流行病や飢饉 と 他イベント

709 年正月 下総国 3 月隠岐国 飢饉 5 月河内・摂津・山背・伊豆・甲斐 長雨で稲損なう

6 月上総・越中に流行病 紀伊国に流行病

710 年 2 月信濃国に流行病

710年3月10日 平城京に遷都 これより奈良時代

4月参河・遠江・美濃に飢饉

711年正月(和銅4)都亭の駅を初めて設ける 山背国相楽郡に岡田駅、綴喜郡に山本駅、河内国交野に楠葉駅、摂津国嶋上郡に大原駅、嶋下郡に殖村駅

伊賀国阿閉郡に新家駅(にいのみえき)

4月大倭・佐渡に飢饉 5月尾張国に流行病

712年5月 駿河国に流行病

713年4月 大倭国 流行病 讃岐国に飢饉

715年5月(霊亀元) 丹波・丹後国 飢饉 伯耆国に甘露 5月参河国に地震

6月 大倭国の都祁の山道開く 東国への近道 6月 日照り 弘福・法隆寺で法会、諸社に雨乞い 降る

9月 元正天皇に譲位

717年養老元年4月 いま小僧の行基とその弟子たちは、道路に散らばり、罪業と福德を説き、徒党を組んで良くないことを構え、人民を惑わしている。釈迦の教えに違反し法令を犯している。良くないことが起ろう。禁止せよ。

6月 4月以来雨が降らない。9月当耆郡(たき)行幸 多度山(養老山)の美泉をご覧 美泉は私の体に大きな効き目 霊亀3年を養老とする。

718年2月 美濃国醴泉に行幸 通られた国司・郡司らに禄 美濃・尾張・伊賀・伊勢 流行病や飢饉

719年9月(養老3) 六道の諸国に早害と飢饉 720年5月(養老4)『日本書紀』完成

722年7月(養老6)5月から雨降ふらず旱魃・・朕の徳が薄い恩赦 稲の苗は実らず。9月初めて調を銭で納めさせた。

723年4月 日向・大隅・薩摩で穀物実らず飢饉や疫病 724年神亀元年2月 聖武天皇に譲位

725年7月 七道の諸国に詔 神社の清掃 諸寺院の境内は努めて祓い浄め、僧尼の金光明経か最勝王経の転読

726年7月に太上天皇が病気 僧15人尼7人を得度

9月の詔に今年の秋は大豊作 12月尾張国の民2242戸収穫が損なう飢饉、遠江国水害

727年2月 災異がやまない。使者を派遣して調査 農時に人は働き、自然の恵みも調いよい季節

天平2年(730)6月 旱害のため畿内4ヶ国に調査

天平3年(731)8月 豊年が最も今年今年穀物の実りがよい、諸国の田税を半分免除

天平4年(732)6月 この夏日照りで人々は田作りをしていない。しばしば雨乞いの祭りを行ったが雨を降らすことが出来ない。朕の不徳のせいである。人民には罪はない

天平6年(734)4月 大地震 山崩れ、地割れ このごろの天地の災難は異常。朕が人民をいつくしみ育てる 徳化に欠けたところがある。天平17年地震多発(後記)

天平7年11月 この年、穀物の実りが非常に悪かった。

天平8年11月 秋の収穫がすこぶる阻害されたことから、天皇は畿内四ヶ国、吉野・和泉の国々の今年の租を免除

天平9年5月、4月以来、疫病と干ばつが並び起って、田の苗は枯れしぼんでしまった。

飢饉は水不足に由来した奈良時代の高温乾燥という気候は平安時代初期まで続く。

この時の政府の対策は、雨乞いの祈祷、税の軽減、被害に遭った公民への救済、大赦であった。

注目点は、干ばつ時に雑穀栽培の奨励。小麦、大麦、粟、キビ、大豆、ソバなどを奨励した。

養老6年(722)の時は、緊急事態として区画を割り当てて晩稲、ソバ、大麦、小麦を植え収穫を貯え、凶作に備えるように国司に命じた災害対策だった。

8世紀を通して飢饉の発生は、人々の免疫力低下に繋がり、天然痘を筆頭に疫病の流行をもたらした。

大半は高温乾燥が高まると流行し、春に始まり、夏をピークに秋には終息するものが中心だった。

天然痘の大流行で政権中心部に被害

続日本紀に見られる初記事 前記の通り天平7年(735)この年の春はいつになく大陸との国交が盛ん

2月 新羅使節が平城京に入る 3月 遣唐大使が唐国より帰国 4月 入唐留学生 吉備真備ら帰国

5月 帰国の遣唐使と唐人が唐楽、新羅楽の演奏と槍舞

8月 太宰府管内で疫病による死亡するもの多数 太宰府で瘡のできる疾病が大流行

11月 天皇の勅 この年、穀物の実りが非常に悪かった。

夏から冬にかけて全国的に豌豆瘡を患って若死する者が多かった。主死者 新田部親王の死に齋会を行い、僧侶は百人が限度。聖武天皇の母方の祖母不比等の妻(賀茂朝臣比売)、舎人親王智太政官。従三位の鈴鹿王を葬儀の監督 災害や異変が発生、流行病も治まらないので天下に大赦。

天平8年(736)10月 太宰府管内の天然痘で農作業も出来ない。今年の田租を免除し、人民の命をつながせたい

11月 国々の今年の田租を免除 秋の収穫が阻害

天平9年(737)正月遣新羅使帰国入京、大使は対馬で卒 副使は病気で入京出来なかった。

3月3日 国毎に釈迦仏1体、脇侍菩薩2体、大般若經書写 4月太宰府管内で瘡の疾病が流行り人民多く死んだ。

全国蔓延:7月に大倭、伊豆、若狭、伊賀、駿河、長門等 知太政官舎人親王が死去後、次の太政官は天平9年8月

高市皇子嗣子で長屋王弟の鈴鹿王が知太政官事に任命

今まで親王が知太政官事だが、天皇の孫で従三位参議の地位にあった鈴鹿王の任命は異例

天平9年(737)主な死亡者:藤原房前、中納言多治比県守はじめ高官4人も、この中に小野老も、藤原麻呂、武智麻呂、藤原宇合、聖武を支える藤原4兄弟の全員が没す。

小野老(おゆう)朝臣 天然痘で死亡 太宰府に派遣されていた時の歌

万葉集 328 あをによし寧楽の京師は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり

この時代の疫病対策(奈良文化財研究所 参考)

聖武天皇は 神祇祭祀 神の祭 祈禱を行う 寺院で読経 大寺、諸国の寺に金光明經 金剛般若經

賑給(しんきゅう)・賑恤(しんじゅつ):食料、衣料等提供 税の免除 薬湯、療養法の指導

道饗祭祀 大赦 天皇の徳を求め

1. 元そごう奈良店・現ミ・ナーラ(長屋王邸宅の近く)

二条大路の路肩部分に、長大な濠状のゴミ捨て穴を発見出土した木簡から、天然痘大流行の前後の遺物と判明 天然痘の終息を願う呪符木簡も出土しました。

「一匹の大蛇あり。九つの頭を持ち、尾は一つ。唐鬼以外は食べない」と書かれていて。中国では、天然痘のような疫病は「瘡鬼(ぎやくき)」が引き起こすと信じられていました。「唐鬼」当時は「まじない」は立派な「医療」と考えた

「南山のふもとに、流れざる川あり。その中に一匹の大蛇あり。九つの頭を持ち、尾は一つ。唐鬼以外は食べない。朝に三千、暮れに八百。急急如律令。」

聖武天皇の吉野行幸天平8年6月27日 南山は吉野の南にあるとされ、唐鬼を食べてもらうための行幸か

2、濠状土坑から、まだ使えそうな完全な形に近い食器がたくさん捨てられていました。

疫病蔓延防止で食器は使い回さない予防対策

3、天然痘の大流行は、聖武天皇に遷都を決意させた。大仏建立へと導いたとも言われている。

以降、平城京の庶民は、人面墨書土器で新祭祀が流行

4、食器を「道饗祭」使用。水際策

5、天皇としては人民に祈る。そして仏教の教えから、仏像を作りお経を大勢の僧侶で読経する。

天平9年3月3日の詔 国毎に釈迦仏像一体と脇侍菩薩2体を造り、大般若経(1部6百巻)を書写させよ。

道慈も僧 150 人を招き大安寺で転読を願う。

兵部卿宅の墨書土器があわせて二条大路の路肩部分で出土 藤原麻呂は二条二坊に宅

兵部卿と呼ばれていた天平9年7月13日に天然痘により死亡

この土器もあわせて見つかり、食器は使い回さない予防対策として廃棄されたと。

道饗祭(みちあへのまつり、ちあへのまつり) 平城京の羅城門の東横 神道祭祀の1つ。上代から毎年6月と12月の2回、都の四隅道上で、八衢比古神(やちまたひこのかみ)、八衢比売神(やちまたひめのかみ)、久那斗神(くなどのかみ)の3柱を祀り、都や宮城の中に災いをもたらす鬼魅や妖怪が入らぬよう防ぎ、守護を祈願する神事、神社の祭で供物が供えられる。水際対策の一つとして、都の入り口前川遺跡から祭祀土器が出土

『神祇令』京城の四隅道上において、鬼魅を京師を入れさせないようにあらかじめ路上に饗応のものを供えて退散を願う

## 6. 小型食器

箸に注目。飛鳥・藤原地域からは箸がほとんど出土しないが、平城宮から木製箸が大量に出土する。箸を使う食事の普及は奈良時代に始まると考えられる。又奈良時代初めには、大皿が使われていたが、天平の天然痘の蔓延以降に、小型食器が普及し始めた。

コロナ対策で、食事に大皿をやめて、個人ごとの食器にと言われた今年、その意味がわかります。

小型食器は、感染拡大の防止のために、個人用食器に切り替えたと考えられます。

常に造営工事が続いていた平城宮の中で、主要な造営資材であるヒノキの切れ端を箸として利用した結果と考えらる。

また、『正倉院文書』では、「箸竹」という言葉が出てきています。 奈良文化財研究所ブログより

太政官符

麻疹の事(はしか)

天平9年の処方箋 疫病は赤斑瘡という。(7年は天然痘) 冷水は、決して飲ませてはならない。瘡も治ろうとし、熱気も治まるころに、下痢がまたおこり、早く治療が必要

1.広い布と綿で腹・腰によく巻いて、暖かくして冷やしてはいけない。

1.寝具は粗末であろうが、地面に寝かせてはいけない。床に敷物を強いて寝かせなさい。

1.粥、おもゆ、煎り飯、粟汁などは、温冷にかかわらず食べさせなさい。但し、鮮魚や肉や生野菜は食べないように。

また水や 氷を採らないように慎みなさい。下痢をしたらニラ(ニンニク)やネギを煮て、大量に食べさせなさい。

1.飲食をしたがらないが無理にでも食べさせなさい。発病したら焼いた海草や搗いた塩をたびたび口に含ませなさい。

1.回復後も二十日間は、鮮魚、肉、生野菜を取ることや、生水、水浴、房事、風雨の中を無理に歩いたりすることは慎みなさい。二十日たてば、魚、肉を食べたければ、よく炙ってから食べなさい。

1.疫病を治そうと思つたら、丸薬・散薬などを服用してはならない。もし熱が引かなければ、人参湯を服用させるのはよい。

天然痘は天平7年9年(737)麻疹と天然痘もあったとしても、天平9年以降はどうだったか

飢饉は相変わらず発生し、疾病の流行りは有ったが、天然痘は修まったように見えていた。

784年(延暦3)桓武天皇 長岡京に遷都

790年(延暦9)12月に「この年の秋と冬に、京や畿内の30歳以下の男女は、ほとんどが豌豆瘡に(天然痘のこと)かかって、病に臥した者が多かった。病気の重い場合は死亡した。天下の諸国でしばしば発生した。」と再発なのか。前回天平9年(737)で790-737=53 30歳以下の男女に発症したことは、高齢者には集団免疫が出来ていたと考えられる。

この天然痘の全国の蔓延は名張にもあった。

鴻之巣遺跡は名張の代表的な遺跡 遺跡の場所 名張市役所と周辺に位置する。その特徴

時期：縄文時代か古墳・飛鳥・奈良時代・中世 建物集落群は、古墳時代初頭前後、飛鳥時代、夏見廃寺金堂を飾る  
博仏の甲午年(694)の完成の影響か、竪穴式住居から、掘立柱建物へ移行、倉庫用建物(飛鳥後期の遺物が出土)と  
竪穴住居が混在していた時期もある。

大量土器出土：平城宮Ⅱ期(約710～730)、平城宮Ⅲ期(730～750)この時期以降の多量土器を伴う土壌はない。

飛鳥時代終～平城宮Ⅲ期に大多数の掘立柱建物が造営 北区に「廂付建物」を中心に囲むように「並び倉」や  
建物が配置。表向き公的な「館」空間。中区は廂付建物、井戸、工房(焼成)「厨」的。南区は「雑舎」。

中区 最大床面積の三面廂建物を中心 南のSH41 南SK124に銅製帯金具の鉞尾が出土

『伊賀国天平二年正税帳』記載の 『寧楽遺文』 主帳外少初位上勳十二等夏見金村

土壌SK135 平城宮Ⅰ期～Ⅱ期、Ⅱ期～Ⅲ期 Ⅰ期(7世末-8世初)、Ⅱ期(710-730)、Ⅲ期(730-750)

SK135からは土師器の坏(433-445)は一番出土量が多く、しかも小ぶり。大部分は胎土が乳茶色、軟質という特徴

前の443、444だけ赤褐色の精良な胎土、444の内面はかすかな暗文(あんもん「暗文」は金属の光沢感を再現)ある。

Ⅱ期～Ⅲ期と思われる、杯・椀、個人用の小型食器今まで、宴会等に一時期使用されたとされていたが平城京の小型  
食器のように感染予防策として、大型食器の共食をやめ、個食に切り替え、感染者の食器は廃棄されたと考えられる。

コロナ感染対策を知る今だから言える。

万葉集 天然痘で亡くなった遣新羅使

天平8年4月に遣新羅使が出発、天平9年正月に帰国する。

9年正月27日 遣新羅使の大判官の壬生使主宇太麻呂少判官の大蔵忌寸麻呂ら入京(帰国)大使・阿部朝臣継麻呂  
は対馬に停泊中に卒し、副使の相伴宿禰三中は病気に感染して入京できず。(3月28日に入京できた)

壱岐(ゆきのしま)に至りて、雪連宅満(ゆきのむらじやかまろ)のたちまちに鬼病(きびょう)にあいて死去せし時に作る  
歌一首 万葉集 3688

天皇の遠の朝廷と韓国に渡る我が背は家人の齋ひ待たねか正身かも過ちしけむ秋さらば帰りまさむとたらちねの母の  
申して時も過ぎ月も経ぬれば今日か来む明日かも来むと家人は待ち恋ふらむに遠の国いまだも着かず大和おも遠く  
離りて岩が根の荒き島根に宿りする君

訳文 帝が遠く離れた地へと お遣わしになる使者として 新羅の国に渡るあなたは 妻がつつしみ祈りして  
帰りを待っていなかったのか自身が過ち犯したか 秋になったら帰りましょうと 母に申した時も過ぎ  
月も替わって今日にも帰るか明日帰るか妻は焦がれて 待っているであろうけど 遠い国には到着もせず  
大和からも遠ざかり 岩場だらけの荒涼とした 島であなたは旅寝する

枕詞：たらちねの

「遠の朝廷」都から遠く離れた役所、またはそこに派遣される官人。「から」中国・朝鮮の古称。ここでは新羅をさす。  
「家人」家族。とくに家に残された妻。「齋ひ待たねか」旅の無事を祈って禁忌をつつしみながら待っていなかったのだ  
ろうか。「正身」本人。その人自身。「秋去らば」秋が来たら。「帰りまさむ」帰ることになるでしょう。

3689 3690の万葉集

新羅に派遣された使者たちが別れを悲しんで贈答した歌～その所々で誦詠した古歌

壱岐の島に着いて、雪連宅満(ゆきのむらじやかまろ)が突然鬼病に罹って死去したときに作った歌一首と短歌

3689 石田野(いわたの)に宿りする君家人のいづらと 我(われ)を問ばはいかに言はむ

訳)石田の野辺で旅寝する君 家の人はどこにいて どうしているかと私に問えば 何と言えよよいでしょう

「石田野」長崎県壱岐市石田 「いづら」どのあたり

3690 世の中は常かくのみと別れぬる君にやもとな 我(あ)が恋ひ行かむ

訳)世の中なんていつもこんなに はかないものと思わせて別れて行った君にむなしく 焦がれて旅をするのかな

「もとな」わけもなく 鬼病 天然痘

藤原 4 兄弟亡き後に橘諸兄政権誕生

天平 7 年の天然痘流行から、天平 9 年の流行の間 天平 8 年(736)2 月に瓶原離宮に行幸

後の恭仁京遷都の下見か(山城国相楽郡) この月に僧侶 2 人 施しを付与 玄昉法師、道慈法師

天平 9 年 6 月 1 日 朝廷での執務を取りやめ。 諸官司の官人が疾病に罹患

8 月:誰も居なくなった政権を、朝廷では鈴鹿王を知太政官事に、橘諸兄を次期大臣の資格を有する大納言に任命

天平 10 年(738)阿倍内親王 皇太子(後の孝謙・称徳天皇) 同正月:橘諸兄を右大臣

5 月に橘諸兄を神祇伯とし伊勢大神宮に奉らす(疫病関係) 玄昉、橘諸兄・吉備真備らが政界の権力を握った。

東大寺建立の発意等も玄昉の進言とも言われる。

大仏建立について

天平 12 年 2 月 難波宮行幸の帰路に智識寺に行幸し、盧舎那仏を拝したのが盧舎那仏造顕発願への動機となった  
知識集団や民衆により建立・運営された智識寺の在り方は聖武天皇の心に感銘を受け、東大寺建立にも反映された。

智識寺跡の場所 柏原市

これより 5 年間

聖武天皇は天平 12 年(740)東国行幸 40 歳の自立?(701 年生れ) この時に名張泊で通過 不破関を経由

恭仁京まで帰り留まる 藤原広嗣の太宰府から謀反

遷 都 恭仁京 難波京 紫香楽宮 平城京 この間に大仏建立を決める

諸国の国分寺・国分尼寺の建立を決める

不思議な旅が始まる

天平 12 年 6 月(740) 天下の国毎に法華経を十部写し、あわせて七重塔建立を指示。(国分寺建立の前ぶれ?)

天平 12 年 9 月太宰少貳藤原広嗣の謀反 天皇は勅を下し 1 万 7 千人の力で討たせる命令

人民の安泰を願い、国毎に高さ 7 尺の観世音菩薩 1 体を造るとともに、観世音経十巻を写経するように。

東国行幸(朕は思うことがあり、関東に行こう)

10 月 26 日 天皇は暫関東に行幸する。29 日出発 10 月 30 日 名張郡着 11 月 1 日 安保着(青山町) 宿泊

11 月 2 日 一志郡河口頓宮に到着 関宮と称す 伊勢大神宮に幣帛(みてぐら)奉納の使者

10 月 29 日の訴状 23 日に広嗣らを捕らえたと知る 法の規定により処断、終わったら報告のこと。

通知は往路とも 6 日間 11 月 5 日斬刑執行終了の通知

都の遷都 恭仁京 740 年 12 月~744 年 2 月

天平 13 年(741)3 月の詔 3 点

1) 国分寺・国分尼寺の造営 造営の理由

聖武天皇の思い:「朕は徳の薄い身である。民を導く良い・寝ても覚めても恥じることが多い。・国家が安泰で、人民は  
楽しみ、災害がなく幸いもたらされた。どう政治指導を行えばいいのか。」「この頃田畑の稔りが豊かでなく、疾病  
がしきりに起こって、独り心をいたため自分を責めている。・文六の釈迦像 1 体を造り、大般若経を写させた。すると春から秋の収穫まで順調で良く稔った。真心が通じ願いが達し、自分でも心が安まった。そこで全国に七重塔一基を造営し、



金光明経と妙法蓮華経を写経を命じる。…また

国毎に国分寺を建て、名を「金光明四天王護国之寺」とせよ。国分尼寺は名を「法華滅罪之寺」とせよ。毎月 8 日に金光明最勝王経を転読し、受戒の羯磨を暗誦せよ。…」

天平 9 年(737)3 月 3 日 国毎に釈迦仏 1 体、脇侍菩薩 2 体、大般若経書写、天平 12 年 6 月(740) 天下の国毎に法華経を十部写し、あわせて七重塔建立を指示。

この結果、災害も無く、五穀は稔り、願いが伝わった。 国分寺・国分尼寺の建立をする決心出来た。建立指示  
天平 19(747)11 月国司の怠慢、多くの国分寺の造営は滞った。「国分寺造営督促の詔」を出す。三年以内に完成せよ。  
造営体制を国司から郡司層に移行させ、完成させたら郡司の世襲を認めるなどの恩典を示した。

これにより、ほとんどの国分寺で本格的造営が始まった。

伊賀国分寺 伊賀市西明寺 上寺山国分寺 国の史跡 伊賀国分尼寺 伊賀市西明寺 750 年代に完成か

2) 墾田永年私財法の詔 天平 15 年 5 月 27 日(743)

天皇の詔「墾田は養老 7 年の格(三世一身の法:新規開墾の田地は三代までその土地の所有を認める)によって、  
期限が満ちた後は、官に収め口分田として班給する。そのため農村は怠けてなげやりになり、土地を開墾してもまた荒  
れてしまう。今から後は、自分で開墾した土地は、自由に個人の財産として、すべてみな永年にわたって、公が取り上げ  
ることがないようにせよ。…(以下に土地の広さを官位にあわせて実施)これを墾田永年私財法と呼ぶ。」

\* 口分田(くぶんでん):日本の律令では、戸籍に基づいて 6 年に一回、口分田として 6 歳以上の男性へ 2 段、  
女性はその 3 分の 2 が支給。その収穫から徴税(租)が行われる

3) 盧舎那仏の大仏建立の詔 天平 15 年(748)10 月 15 日

「朕は徳の薄い身でありながら、天皇の位をうけ、志は広く人民を救うことにあり、努めて人々をいつくしんできた。…  
天下のもの一切がすべて仏の法恩に浴しているとは言えない。本当に三宝の威光に頼って、天地共に安泰になり、よろ  
ず代まで幸せを願う…栄えんことを望む。」

「盧舎那仏の金銅像一体を造ることにする。国中の銅を尽くして像を鑄造し、大きな山を削って仏堂を構築し、広く仏法を  
全宇宙に広め、之を朕の智識(仏の協力者)としよう。朕も衆生も皆同じように仏の功德をこうむり共に仏道の悟りを開く  
境地に至ろう。事業の参加者は心から至誠をもって、それぞれが大きな福を招くように、一枝の草や一握りの土のわず  
かなものでも捧げて、この造仏の仕事に協力したいと願う者は許そう。」

天平 15 年(743)10 月 19 日紫香楽宮に行幸。盧舎那仏の像を造るために初めて甲賀寺の寺地を開く。

この後に体骨柱を建てる。行基法師はここで弟子達を率いひろく民衆に参加を勧誘した。

12 月 26 日恭仁京に遷都から 4 年。工事は終り、経費は膨大、紫香楽宮を造るから、恭仁京の造営は停止する。

天平 16 年(744)正月「恭仁・難波の二京でどちらを都とするか自分の考えを述べよ。 恭仁京がわずかに多い。

2 月 21 日恭仁京の住民で難波に移りたい者は許す。 2 月 26 日今から難波宮を皇都と定 両都往復を許す

3 月 14 日大般若経を紫香楽宮に運ぶ。

天平 16 年(744) 11 月甲賀寺に初めて盧舎那仏の体骨柱建つ 太上天皇が甲賀宮(紫香楽宮)に到着

天平 17 年正月(745)紫香楽宮に遷都 行基法師 大僧正(だいそうじょう)に任じた

移行、紫香楽に火災が多発 伊賀国の真木山(阿山町)も火災

4 月 地震多発 美濃国で櫓・館・正倉・仏寺など崩壊 5 月 1, 2, 3, 4, 5, 6 日移行も 地震多発

4 日には都をどこにするか聞く 平城を都にの声大 9 日近江の人千人で甲賀宮周辺の山火事の消火

11 日まで毎日地震、16・18 日からまた地震 山火事は消えない。

今月の地震多発は異常 度々地面に亀裂、泉水湧出す。 この月に都を平城に戻す。

天平 17 年の地震は 6 月、7 月、8 月、9 月にも続く 聖武天皇が病気がちになり、様態も 10 日以上悪い  
8 月 15 日 大安殿で無遮大会(大仏造像を平城に) 9 月天皇は平城宮に還幸  
12 月 15 日 恭仁京の兵器を平城宮に運ぶ 天平 18 年(746)地震が続く 9 月 恭仁京の大極殿を国分寺に施入  
後の例)天平宝字 8 年(764)12 月 淳仁天皇の時 「西の方で声が聞こえた。雷ではない。」 この時  
大隅国と薩摩国の間の海に三つの島が炎を吹き上げた。大勢が犠牲になった。桜島の大噴火が  
このように地震も多く発生したため、聖武天皇は恩赦と、仏教にさらに熱心になる。

天平 19 年(747)12 月 聖武天皇の勅 太上天皇(元正)は神体が不調で安眠できない。大赦  
人民の中で塔を造立することを真心から願う者があれば、すべてこれを許す。

塔を造る準備が出来たら先ずその状況を報告せよ。この時は多紀内親王は二品 翌年の 4 月に一品を捧げた。  
⇒この勅は、夏見廃寺の塔・講堂を修造するきっかけかと言う可能性も考えられる。

伊賀国夏見郷刀禰解案に多紀内親王は、夏見に 80 町の地を有していた。『夏見廃寺の研究』によると、天平期の  
軒平瓦Ⅱは毛原廃寺等と同範であり…塔は 8 世紀第 2・四半期頃の天平尺によって建立されたと推定される。」  
P68 に見られ、「修造(天平)期」同 P133 にあり、塔の芯礎や他の礎石も基壇上面に露出されており、天平期の通例に  
従ったものである。」

夏見廃寺 塔・講堂の建設(軒平瓦 平城宮 6689A 先行型) 金堂は 694 年には完成していた。そこに塔・講堂の建設  
塔は 8 世紀第 2・四半期頃の天平尺によって建立されたと推定される。725~750 年頃 完成は少し遅れる可能性も  
軒平瓦Ⅱは毛原廃寺、伊賀国分寺等に使われていた。

#### 岩屋瓦窯

場所:名張川の少し下流に平井亭 その角 同じ場所で登窯から平窯に造り替えられていた。

平窯は「ロストル式」、平城京に供給した平窯は奈良山瓦窯とよく似た構造。出土瓦は平城宮と同じ文様がほとんど。  
この瓦は、近くの毛原廃寺や、伊賀国の夏見廃寺、三田寺廃寺、才良廃寺、鳳凰寺廃寺からも出土している。

#### 夏見廃寺の塔創建の時期の可能性 続日本紀から

神亀 2 年(725)7 月 諸寺院の境内は清潔にせよ。金光明をよませよ。天平 9 年(737)3 月 国毎に釈迦仏 1 体と脇侍菩薩  
2 体を造れ。天平 12 年(740)6 月 国毎に七重塔を造れ。天平 12 年 9 月 国毎に 7 尺の観世音菩薩 1 体を造れ  
天平 13 年(741)1 月 諸国の国分寺に丈六の釈迦像を造る費用に充てた。3 月 全国に七重塔を造営し 国分寺・国分尼  
寺の造立。天平 16 年(744)7 月 国分寺・国分尼寺に永く造営の費用に。天平 17 年(745)諸国に命じて 6 尺 3 寸の  
薬師仏を 7 体造れ。天平 19 年(747)11 月 国毎に金光明四天王護国之寺、法華滅罪之寺は遅れ、3 年以内に塔・金  
堂・僧坊を完成せよ。天平 19 年 12 月に人民の中で塔を造りたい人は造れ

#### 天平勝宝元年(749)2 月 大僧正 行基和尚が遷化(死去)

聖武天皇は、行基を大変敬い重んじられた。大僧正の位を授けた。供養のため 100 人出家。行基のた滞在した処はみ  
な道場が建った。畿内に四十九カ所。他の諸道にも方々にあった。天平 20 年(748)に聖武天皇が菅原寺に行幸され、  
ご本尊をおまいりされたところ、ご本尊から不思議な光が放たれた。聖武天皇は大いに喜ばれ、「歓喜の光の寺である」  
として「喜光寺」の名を賜った。その喜光寺で行基は亡くなった。享年 82 歳

「喜光寺」本堂(国重文)は、「試みの大仏殿」と呼ばれる。行基菩薩は生駒山東陵で荼毘。墓所は竹林寺

行基は大仏完成の前に亡くなったので供養塔を建てたと思われる。『行基年譜』には、行基建立の寺院が記され、有力  
なのが菅原寺(現・喜光寺)の西の岡にあった長岡院と記されている。発掘調査の結果、多宝塔跡が出現した。

菅原遺跡 2020 年 12 月 奈良市疋田町で発見類例の無い遺構の中心建物を検出 中心建物は、行基の供養堂であっ

た可能性が指摘されている。 新聞各社ニュースは 2021 年 5 月 20 日、21 日

奈良新聞では、昭和 56 年、奈良大学の発掘調査で建物基壇跡を検出。「長岡院」と推定されていた。

多宝塔は文献上、平安時代初めに空海が金剛峯寺(和歌山県高野町)で造営を始めた塔が最初とされる。今回の遺構が多宝塔とすれば 60~70 年さかのぼる可能性があるという。

天平 21 年(749)4 月 14 日 聖武天皇、東大寺行幸し、大盧舎那仏の前で詔

左大臣橘諸兄を正一位、藤原豊成を右大臣、他にも任命多紀内親王に一品を授けた。天平 21 年を改め天平感宝元年と改めた。この 2 月には陸奥国で黄金を貢進 5 月に千人を得度させた。7 月 2 日 聖武天皇の位を皇太子に譲位：孝謙天皇 藤原仲麻呂を中納言に任じた。この日に年号を感宝元年から天平勝宝元年 8 月大納言・藤原仲麻呂に紫微令を兼任 紫微中台の長官 これから一時期仲麻呂が権力を握る。12 月東大寺に太上天皇・天皇が行幸 僧 5 千人を請じ(招き入れ)礼仏読経 智識寺の話を 左大臣の橘諸兄が天皇の詔で申し上げる。

天平勝宝 3 年(751)4 月 インド僧の菩提法師に僧正 東大寺創建の功労者に良弁法師を少僧都 名張市丈六寺の五輪塔(鎌倉時代作 名張市指定文化財) 良弁僧正の供養塔と称されている

天平勝宝 4 年(752)4 月 9 日 大盧舎那仏完成

開眼供養 玉座には聖武太上天皇、光明皇太后、孝謙天皇が座す僧侶 1 万人

開眼の導師を務めるのはインド僧の菩提僧正(菩提僊那) 信貴山縁起絵巻による大仏像

インド僧 菩提僧正(菩提僊那)の墓 霊仙寺 天平 8(736)年、聖武天皇の勅命で、行基が建立

菩提僊那がインド霊鷲山に似ているところから霊山寺と命名 (奈良市中町 富雄川沿い バラ園で有名)

天平勝宝 6 年(754)正月 唐・鑑真和上来朝

遣唐副使の大伴宿禰古麻呂が鑑真に伴い帰国 古麻呂が唐の出来事を奏上する。

「唐の正月に、唐の百官の人々と、朝貢の諸外国参列 玄宗皇帝は蓬萊宮の含元殿において朝賀を行った。唐の朝廷は古麻呂の席次を、西側にならぶ組の第 2 番の吐蕃(チベット)の下に置き、新羅の使者の席次を東側組の第一番の大食国(ペルシャ)の上においた。古麻呂は、「昔から今に至るまで、久しく新羅は日本国に朝貢しております。ところが今、新羅は東組の第 1 の上座で、我は逆にそれより下位におかれています。義にかなわない事です」と、唐は古麻呂の次席を肯定しない様子を見て、直ちに新羅使者を吐蕃の下座につけ、古麻呂を東組の第一番の大食国の上につけた。」

龍性院 滝之原 唐招提寺に竹を送る会

唐招提寺建立 天平宝字 3 年(759)8 月 淳仁天皇の代(廃帝) 新田部親王の旧宅を鑑真和上の私寺として創建

出土埴仏 新田部親王の念持仏か夏見廃寺の大型多尊埴仏と同様の図像

毛原廃寺 いつ何のために造ったのか

文献に無い。何のための寺か不明。考えられること。大宝元年(701)8 月 3 日に大宝律令が完成

僧尼令に民衆教化禁止、山林修行や乞食行為の制限

養老元年(717)小僧の行基は徒党を組んで良くないことや、人民を惑わす僧尼令違反

天平 2 年(730)9 月、京に近い東の方に大人数を集め衆をまどわす者がある。多い時で一万人。これらの者は国法に背いている。このような事は許さない。〈行基集団〉 天平 3 年(731)行基に従う高齢者を許す。

行基は山林修行して道昭に学び禪に取り組む。聖なる環境で修行すると記憶力向上。神通力向上。

天平元年(729)長屋王の変 728 年優れた僧を山房に住ませ、金光明経 640 巻を諸国配布し 転読させた。

国家平安のため。また読経が出来る僧が増える。

天平 6 年(734)11 月太政官奏上

仏教の流伝は僧尼の働きによる。しかしこの頃の出家は学業をよく究めず、法意にそむく。今後は推挙する者は、法華

経あるいは最勝王経を暗証し、礼仏の法を解し、浄行が3年以上の者を選んで得度させる。

天平9年(737)8月天然痘の流行る中天下泰平・国土安寧のため、宮中15カ所に僧700人を招き、大般若経・最勝王経を転読、400人出家、畿内・7道の諸国から578人出家。天平勝宝元年(749)に宮中に1000人を得度

天平勝宝4年(752)盧舎那仏完成により開眼供養 僧を1万人を誦経。いかに大量の僧尼の養成が必要だったか、暗証出来る場所で国家の管理できる場所が必要だった。ここに毛原廃寺の山間部修行の寺が建てられたと考えられる。

毛原廃寺、夏見廃寺塔・講堂、伊賀国分寺 の建設時期 建造には20~30年要した

平城宮 6689A 先行型式の製造期間は724~759年 「夏見廃寺の研究」参照

奈良時代のその後 終焉

聖武天皇が、娘の皇太子に天皇を譲り孝謙天皇 聖武上皇となる。天平勝宝8年(756年)に新田部親王の子の道祖王(直後に淡路に幽閉)を皇太子にする遺言を残して崩御 道祖王を廃皇太子にし、大炊王(淳仁天皇)を立つ  
天平宝字2年(758)母光明皇后の看病のため、藤原仲麻呂の推す大炊王(おおいおう)に皇位を譲り、孝謙天皇は上皇、  
淳仁天皇(大炊王) 天平宝字4年(760)に光明皇后が崩御 孝謙上皇と淳仁天皇・藤原仲麻呂と関係は不和  
称徳天皇は気落ちし病に。このとき加持祈禱を行ない、献身的に看病した僧が弓削の道鏡 女性天皇であるが故に  
生涯独身である必要があり、ストレスになる。道鏡は孝謙上皇の心のすき間に入り込み寵愛を受ける。

淳仁天皇は藤原仲麻呂の進言に、孝謙上皇に道鏡との中を諫める。激怒した孝謙上皇は淳仁天皇から軍の指揮権を奪って藤原仲麻呂を討つ。淳仁天皇を廃して流罪

天平宝字9年(765)11月孝徳上皇は称徳天皇として重祚

天平神護元年(765)飢饉や謀叛事件など、政情は不安 墾田永年私財法を社寺を除き禁止、開墾が過熱のため

称徳天皇は道鏡を朝廷の最高位の太政大臣禪師に任命 さらに道鏡に「法王」地位を与えた。

神護景雲3年(769)、称徳天皇と道鏡に関し大事件発生

「宇佐八幡宮神託事件」が勃発「道鏡を皇位に就かせれば天下太平になる」という宇佐八幡宮の神託。

真偽の確認のために和氣清麻呂を宇佐八幡宮に派遣。和氣清麻呂はこの託宣は虚偽であると復命した。

激怒した称徳天皇は和氣清麻呂を左遷

神護景雲4年(770)2月、称徳天皇は由義宮に行幸中に病気になる。由義宮(河内国若江郡弓削郷 道鏡の出身地)

看病は宮人(女官)の吉備由利(吉備真備の姉妹か娘)だけ道鏡は崩御まで会うことはなかった。

道鏡の権力はなくなり、軍事力は藤原永手や吉備真備らの太政官の手が奪う。

神護景雲4年(770年)8月に称徳天皇は病悪化、崩御。

道鏡は下野国(しもつけのくに)下野薬師寺別当(しもつけ やくしじべつとう)左遷 下野国で死亡

白壁王を後継として指名する「遺宣」で白壁王は光仁天皇として即位する。62歳 皇后:井上内親王 皇太子:他戸親王

光仁天皇の長男山部親王が跡を継ぎ桓武天皇となり、784年長岡京へ、794年平安京へ 平安時代になる

この時の権力抗争 即位後、井上内親王を皇后に呪詛による大逆を図ったと密告により、皇后を廃され他戸親王も皇太子を廃された。異母弟の皇太子・他戸親王と母で皇后・井上内親王が幽閉され二人とも急逝 その後も、天変地異が続き、怨霊説が生まれる。高野新笠夫人所生の山部親王が皇太子になり、後の桓武天皇になる。

怨霊封じの御霊神社

実弟の早良親王も藤原種継の暗殺関与で廃され、絶食死

怨霊封じで崇道天皇社

## 主な参照資料

名張市史 資料編 考古

名張市郷土資料館 夏見廃寺資料館

『夏見廃寺の研究』山田猛 夏見廃寺研究会 2002.9

『続日本紀上・中・下』宇治谷孟 講談社 1992.6

『日本書紀』日本古典文学大系 岩波書店

『日本書紀』上下全現代語訳 講談社学術文庫

『古事記』倉野憲司校注 岩波書店 1964.1

『古事記』中村啓信 角川ソフィア文庫 2009.9

『神野寺縁起絵巻』資料紹介 中野正志 京都女子大図書館

『行基』井上薫 吉川弘文館 1959.7

『鴻之巣遺跡・小谷遺跡・小谷古墳群』名張市遺跡調査会 1991.3

『万葉集講義』上野誠 中央公論新社 2020.9

『懐風藻』江口孝夫 講談社学術文庫 2000.10

『気候で読み解く日本の歴史』田家康 日本経済新聞出版社 2013.7

『古代学研究 224』「毛原廃寺軒平瓦の再検討」古代学研究会 2020.3

藤原宏 高見省三 山田猛

『謎の大寺 奈良県山添村毛原廃寺跡』奈良大学博物館 2019